

四日市市学力向上のための懇談会（第1回、第2回）の概要

H27. 8. 19 教育委員会

1. 懇談会での主な意見

(1) 社会人になっても通用する学力について

- ・紙に書かれた知識ではなく、経験に基づいて得た「暗黙知」が重要である。
- ・企業は、主体性を持つ人材を求め、コンピテンシー（業務遂行能力）を重要視する。
- ・問題解決の能力は、知識を使える形で頭の中に持つために、何度も問題解決を経験して鍛えられるものである。
- ・考える力、論理的思考を養うことが大切である。

(2) 子どもたちの主体的な学び・学ぶ意欲について

- ・体験学習など、子どもたちが将来を考えるきっかけとなる取組が大切である。
- ・子どもたちにいろいろな体験をさせると、自分のやりたいことや能力に気付き、意欲が芽生える。
- ・自分で学ぼうとする力が必要である。自ら学ぶことに喜びを感じる子どもを育てたい。
- ・数値で測られる学力以外で子どもの能力を認めることができれば、様々な子どもが伸びていく。
- ・教師・親以外の大人からいろいろな話を聞くことから得るものがある。

(3) 時代の変化に対応した教育について

- ・今の子どもたちが就職するころには、現在の仕事の6割がなくなると言われている。今の時代に何を教えるべきかを考える必要がある。
- ・今、世の中で何が起きているのか、学校の教員が学習しなければ、社会人として必要となる力が何であるのかわからない。
- ・四日市版コミュニティスクールを基盤とした取組が大切である。
- ・産官学民、オール四日市で子どもたちの学力向上を支援していけるとよい。そのためには、情報共有が大切である。

2. 子どもの学力向上に向けた構想（案） 別紙

3. 第3回、第4回懇談会で協議する教育施策について（案）

- (1) 読解力、要約力、表現力をみがくための1分間コメント
- (2) 学ぶことと将来とのつながりを意識したキャリア教育
- (3) 社会のグローバル化を見すえた英語教育
- (4) 四日市の特長を生かした授業